

カンボジアの交通問題

岡山県カンボジアビジネスサポートデスク (I-GLOCAL Chea Mouyteang)

はじめに

カンボジアでは経済成長に伴い、自動車台数が増加している。中古車の輸入規制も無いため、安価な中古車が市場に流入しており、都市部では交通渋滞が深刻な問題となっている。特に朝・夕のラッシュでは、プノンペン市内のいたる所で渋滞が見られ、マナーの欠如と相まって交通が麻痺することもしばしばである。そのため、今回はカンボジアの交通問題に関してレポートをしたい。

1. 交通問題の概要と影響

1.1 交通渋滞問題

カンボジアでは公共交通機関はほぼ無く、最近ようやく公共バスが見られるようになってきたものの、地下鉄や電車は運行していない。一般の人々の移動手段はバイクタクシーやトゥクトゥクである。プノンペン市内の朝・夕の通勤時間には道路に車・バイクおよびトゥクトゥクが入り乱れ、逆走もあるため、身動きが取れないほどの渋滞が起こっている。渋滞が常態化しているため、カンボジア人は外出の際、早く出発するのが習慣になってしまった。仮に近所であったとしても、朝と夕方の時間帯は必ず普段の15~30分前に出発する。

交通渋滞は国民生活水準の向上を阻害している。幹線道路の未整備または行き止まりによって自動車が歩道のない狭い道を走るため、歩行者は安心して通行できない。また、住民はバイクや自動車の騒音に悩まされるなど、日常生活に不便を感じている。交通渋滞によって時間が奪われ、ガソリンが浪費されることは、カンボジアの経済・環境に悪影響を及ぼしている。

1.2 交通事故問題

カンボジアを始めとする発展途上国では、交通インフラが整っていないこともあり、交通事故が多発し、死亡事故も年々増加している。なお、『World life expectancy』が公表した“世界の交通事故数ランキング”によると全192か国中、カンボジアは第87位であった。また、カンボジア国家交通安全委員会のデータによれば、2014年度の国内における交通事故死者数はプノンペンが最多であった。その他の地域では、カンダール州、コンポンチャム州、バンティアイミエンチャイ州、プレイベン州などの人口が多い州が同死者数も多い。カンボジアの交通事故による経済損失は年約3億米ドルと見積もられており、国民は交通事故が原因で経済的・時間的な損失を被っているだけでなく、歩行が不自由になるなど不便な生活を強いられる被害者も増えている。

また仮に事故が起きた場合、日本では救急車がすぐに到着することが一般的だが、カンボジアの場合は、先述の交通渋滞に巻き込まれることに加え、ドライバーに「救急車へ道を譲る」という意識が欠如していることから、要請から到着までに非常に時間がかかることも多い。

【参考】カンボジアにおける交通事故の推移

	交通事故発生件数	交通事故死者数
2014年	4,840件	2,148人
2013年	4,322件	1,901人
2012年	4,305件	1,894人
2011年	5,096件	1,893人

(出典) <http://portal-worlds.com/news/cambodia/2898>

2. 交通問題の原因

2.1 交通事故の原因

カンボジアでの交通事故は、車よりもバイクの方が多い。主な事故原因は2つあり、1つはスピードの出し過ぎで、同死亡事故の約50%を占めている。もう1つの原因は飲酒運転である。カンボジアでは飲酒運転に関する危機感が低く、結婚式や飲み会などで飲酒した後にそのまま自分で運転をして帰ることは一般的である。法令で飲酒運転は禁止されているが、特に検問があるわけでもないので、飲酒運転で捕まることはまれである。

また、バイクに乗る際のヘルメット着用率も低く、ミラーを付けていないバイクが多いので、事故に遭った際に重傷となるケースも多い。加えて、バイク運転手の実に9割が無免許運転であり、交通ルールも運転マナーも知らないまま運転していることも大きな原因である。法令上は免許の取得が義務付けられているが、ほとんどの人が守っていないことから形骸化しており、警察もバイクに関しては免許の有無を確認することは無い。

2.2 交通渋滞の原因

交通渋滞の原因としては、交通インフラ（信号・標識等）の整備が依然として低水準であることに加え、運転手や歩行者に対する交通教育制度が機能していないこと、交通関連法の整備が不十分であり、法執行が適切になされていないこと等が挙げられる。

プノンペンでは何年間も舗装や洪水対策のための道路工事が続いているため、工事中は車道の幅が狭くなり渋滞が発生しやすくなる。また、道路工事以外にも朝・昼および夕食を販売する露店が路上で営業を行うため、更に渋滞が起きやすくなる。駐車場が整備されておらず路上駐車当たり前となっていることも影響している。こうした状況の中でも、車やバイクの台数は増加の一途を辿っており、交通渋滞の発生に歯止めがかからない状態が続いている。

3. 解決策

交通渋滞の問題を解決するために、カンボジア政府は様々な対策を講じている。

そのうちのひとつが、スカイブリッジ（高架道路）を建設することである。2010年に国内初となるスカイブリッジが建設された。続いて2012年、2014年と続き、現在は4本目の建設が

行われている。また、2014年にはプノンペン市役所が JICA と提携し、一度に多くの人を運ぶことができる公共交通機関（市内バス）を導入した。

さらに、この現状を改善するため、2015年1月に改正道路交通法を施行し、罰則を強化している。当法は92条からなり、次の4つの目的で作成された。

1. 交通安全の提供
2. 交通安全管理
3. 秩序維持
4. 道路の利用が原因で起こった犯罪の阻止

また、法令に加え、カンボジア政府は具体的な「交通安全計画」を作成した。当計画は次の8項目からなる。

1. 交通安全管理：セミナーを開催し、カンボジア国家交通安全委員会・保健省・内務省および教育、青少年、スポーツ省等といった関係省庁の役人に研修を施す。
2. インフラ整備：交通管理施設（信号・標識等）の設置や交通安全状態等を確認、輸送システムを確立および向上させる等
3. 車両の安全確認：輸入車両を調査、輸送安全に関するトレーニングシステムを開始する等
4. ドライバーの意識啓発：テレビやラジオで交通事故や影響等について包括的に放送する等
5. 救急システム強化：保健医療従事者・交通警察・コミュニティの間の協力を促す等
6. 交通法立法と執行：交通警察に法令実務についての研修を施す、現場での罰金支払いを交通警察事務所での支払いに変更する等
7. 運転免許制度の改善：運転免許取得のための技術を教える、またその教習指導員へは研修および能力証明書を提供する等
8. 貨客輸送安全性の管理と評価：貨客輸送安全性の管理について研修や調査および評価をする等

これらの取り組みの成果が実際に見られるのはまだ先であるが、カンボジア政府が同国の交通に対して危機感を持ち、改善のための対策をしようという姿勢が見られる。実際に、これまで信号が無く渋滞が蔓延していたプノンペン市内の交差点では、現在では毎朝交通警察が手信号で交通整理を行うなど、以前は見られなかった動きもある。今後の法整備やインフラの強化に期待したい。

参考文献と引用元：

道路交通法・カンボジア下院・2015年1月発行

https://docs.google.com/a/servingweb.com/viewer?url=nrsc.gov.kh/items/Road_Traffic_Law_Book_2015-1.pdf

道路の安全性年次報告書・OECDiLibrary・2014年10月

http://www.keepeek.com/Digital-Asset-Management/oecd/transport/road-safety-annual-report-2014/cambodia_irtad-2014-10-en#page1

交通安全計画・カンボジア国家交通安全委員会・2014年12月

https://docs.google.com/a/servingweb.com/viewer?url=nrsc.gov.kh/items/Action_plan_2014%28ok%29.pdf